

## 副鼻腔炎・鼻アレルギー

耳鼻咽喉科 担当医 小山 京子

**副鼻腔炎**とは、本来空気で満たされている副鼻腔の中に炎症が起こって膿がたまる蓄膿のう症のことです。

治療法としては保存療法と手術があり、保存療法には抗生物質や炎症を抑える飲み薬、また鼻の中の膿を吸ってきれいにする処置、ネブライザー療法（抗生物質などの薬を細かい粒子にして副鼻腔まで届きやすくなるように蒸気を鼻から吸う療法）などがあります。慢性の場合は内服を数ヶ月続けていただくことがあります。

それら保存的治療で良くならない場合や何度も繰り返す場合には、内視鏡下で鼻の中を広げきれいにする手術 ESS（内視鏡下鼻副鼻腔手術）などがあります。

**鼻アレルギー**については、くしゃみ（鼻のかゆみ）、鼻水、鼻づまりの症状を持っている方に、アレルギーの反応があるか血液をとって検査します。

その中でアレルギー反応をおこすもと（抗原）を確認します。

治療法としては、原因物質（抗原）除去などの生活指導、飲み薬や点鼻薬などの薬物療法、手術（レーザー焼灼、下甲介切除術）などがあります。



## いびき・無呼吸

耳鼻咽喉科 担当医 小山 京子

眠っている間にいびきをかくことがあります。いびきだけでは呼吸が止まることはなく問題ありませんがその中に気道がふさがれて呼吸ができなくなっている状態、つまり無呼吸がひそんでいることがあります。夜間に無呼吸がおこると熟睡できなくなり、活動の低下など昼間の生活に影響が出ることがあります。

当科では呼吸器内科と協力していびき・無呼吸の検査・治療を行います。

眠っている間に無呼吸があるかどうかの検査は呼吸器内科で行います。

当科では、無呼吸の原因としてあごや口の中、鼻に病気がないか検査します。

その際はレントゲンやCTなどの画像検査やファイバースコープを使って中の様子を観察したりします。鼻アレルギーや副鼻腔炎の検査も行います。



治療は大きく分けて、2つあります。

ひとつは鼻 CPAP 療法といって鼻に圧のかかった空気を当てるマスクをします。そうして空気の通り道を膨らませることによって無呼吸にならないようにします。これは呼吸器内科で行います。

もうひとつは手術による治療です。鼻の中が曲がっていて（鼻中隔彎曲症）狭くなっている場合、口蓋扁桃（いわゆる扁桃腺）が大きく腫れているのが狭い場合は、当科でその手術を行います。効果は個人差がありますが、手術をすることによって無呼吸が改善しそれだけで CPAP が不要になることもあります。

上記の専門外来を受診するに当たっては、

一度、耳鼻咽喉科の一般外来の受診が必要ですので、一般外来をご予約ください。